PRESS RELEASE

群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

2023 年 10 月 17 日

報道関係者 各位

健康寿命を延ばす脊椎手術の安全性
～くびの疾患（頚髄症）と手術の最新トレンド～

群馬大学大学院医学系研究科整形外科学（群馬県前橋市）を中心とする研究グループは、大学病院など北関東の９つの医療機関と共同で研究をおこない、最近10年間の1000例を超えるデータを収集し、圧迫性頚髄症（＊1）に対する手術治療と手術後合併症の最新トレンドについて調査しました。

その結果、手術技術の改良が進み、これまで問題だった手術後の上肢麻痺（C5 麻痺（＊2））の発生が減少していました。また、手術を受ける患者は高齢化し、術後の感染症は増えていましたが、再手術が必要となる重症の合併症は少ないことがわかりました。
この結果は、高齢患者の健康寿命（＊3）を延ばすうえで、手術が安全な治療の選択肢であること、手術後に注意すべき患者ケアのポイントを明らかにしました。

本研究成果は、国際医学雑誌「European Spine Journal」に掲載されました。

１.本件のポイント

- 圧迫性頚髄症は健康寿命を脅かす代表的な脊椎脊髄疾患です。
- 今回、圧迫性頚髄症に対する手術法として日本で開発された**「頚椎椎弓形成術（けいついついきゅうけいせいじゅつ）」（＊4）に着目**しました。
- 手術成績の向上を目的に、これまで本手術法の改良がおこなわれてきました。一方で、超高齢化など、患者さんを取り巻く環境は日々変化しています。しかし、近年の手術技術の進歩や患者背景の変化と術後合併症の発生との関係について十分に調査されていませんでした。
- この研究では、**最近 10 年間の手術技術の進歩と術後 30 日以内に起こったすべての合併症に焦点**を当て、群馬大学医学部附属病院整形外科の高澤英嗣病院講師、同大学大学院医学系研究科整形外科学の筑田博隆教授らを中心とする北関東脊椎グループ９施設（群馬大学、自治医科大学、獨協医科大学、筑波大学、前橋赤十字病院、NHO 高崎総合医療センター、JCHO 群馬中央病院、伊勢崎市民病院、NHO 宇都宮病院）が共同研究し、**1095 例という数多くのデータの集積・調査**をおこないました。

2.本件の概要

成果

頚椎椎弓形成術の技術向上とその安全性の高さは、年齢に関わらず、高齢者にとっても有効な治療法であることを示しています。最近 10 年で患者の高齢化は進みましたが手術成績は良好でした。また、術後 30 日合併症の発生率は上昇することなく安定していました。

ただし、**術後 30 日合併症の具体的な内訳は変化**しており、これまで代表的な合併症のひとつであった術後の上肢麻痺（C5 麻痺）は減少し、術後の感染症（手術創部の感染［化膿］、肺炎、尿路感染症）は増加していました。

新規性

最近 10 年の手術治療や術後 30 日合併症の最新トレンドについて明らかにしました。

患者の早期回復・社会復帰に深く関わる**術後 30 日合併症の最新の知見は、術後の患者ケア（周術期管理）の指針に影響を与え、患者の治療の質を向上させる可能性**があります。

3.今後の展望

本研究結果は、頚椎椎弓形成術の有効性と安全性に関する最新の知見を示しています。手術技術の進歩と安全性の向上は、高齢患者にとって治療法の選択肢を広げ、人生 100 年時代における健康寿命の延伸に寄与すると考えられます。

一方で、高齢患者の術後ケア（周術期管理）と早期回復の観点から、感染症に関連した合併症（手術創部の感染、肺炎、尿路感染症）への対策は重要です。これに関するさらなる研究と適切な患者ケアの確立が今後の課題です。

本研究の結果を含めた診療指針（ガイドライン）が更新されることで、医療者だけでなく、治療を受ける患者へ有用な医療情報を提供することが期待されます。

4.研究の成果発表など

掲載雑誌：『European Spine Journal』
国際的に評価されている、欧州脊椎学会発行の脊椎疾患に関する代表的国際医学雑誌。

タイトル：Trends in cervical laminoplasty and 30-day postoperative complications:10-year results from a retrospective、multi-institutional study of 1095 patients

著　　者：北関東脊椎グループ（研究グループ名）

責任著者：高澤英嗣（TAKASAWA、Eiji）

研究責任者：筑田博隆（CHIKUDA、Hirotaka）

所　　属：群馬大学大学院医学系研究科整形外科学

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学医学部附属病院　病院講師　高澤　英嗣（たかさわ　えいじ）

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課法規・広報係

TEL：027-220-7895

FAX：027-220-7720

E-MAIL：m-koho@jimu.gunma-u.ac.jp

用語解説

＊１　圧迫性頚髄症

頚（くび）の老化や靭帯の骨化などが原因で脊柱管（神経が通るトンネル上の部分）が狭くなり、脊髄が圧迫される代表的な脊椎脊髄疾患です。

箸・書字・ボタン締めが不器用になったり、脚がもつれて歩きにくいなどの症状を生じます。

＊２　術後Ｃ５麻痺

術後におこる上肢の麻痺症状であり、「シーゴマヒ」と読みます。いまだに原因不明の合併症で、手術が終わってから数日～数週間 経ってから、肘が曲がらない、腕（肩）を挙げられないといった症状が現れます。

時間の経過とともに徐々に回復しますが、数ヶ月にわたる期間が必要です。そのため、患者の日常生活が損なわれ、早期の社会復帰を妨げるため、医療者・患者の両方にとって克服すべき合併症のひとつです。

＊３　健康寿命

介護を必要とせずに生活できる年齢のことです。

＊４　頚椎椎弓形成術

おもに圧迫性頚髄症に対しておこなわれる手術法で、日本で開発・改良されてきました。

神経に対する圧迫を解除するために、神経の通り道（脊柱管という、神経が通るトンネル上の部分）をひろげる手術です。